

# 初乳の役割、知っていますか？

生まれたばかりの子牛は、病原体から自分の体を守る抵抗力を持っていません。

自分で抵抗力を身につける（免疫ができる）まで、母牛の**初乳に含まれる抗体**が子牛を守る唯一の味方です。

## 1 初乳給与の基本

### (1) いつ初乳を給与するか

初乳に含まれる抗体を子牛が吸収できる能力は、出生後 6 時間がピーク、**生後 6 時間以内に給与することが重要**。

### (2) 初乳を飲まない時は

子牛は、母牛に体を舐められて乳を飲むようになります。母牛が子牛を舐めない場合は、タオル等でマッサージし、自力哺乳を促しましょう。

6 時間以内に自力哺乳できない場合は、強制的に授乳してください。

### (3) 給与量は

量は子牛の体重の 5~10% (1~1.5ℓ) を、**生後 6 時間以内に 3 回に分けて合計約 4ℓ** 哺乳させてください。



【乳首の異なる人工哺乳器】



【油サシ活用の強制的な哺乳器の例】

## 2 母牛から初乳が十分に飲ませられない場合(人工哺乳の場合を含む)

### (1) 冷凍初乳

酪農家から**分娩後 24 時間以内の初乳**を分けてもらい、冷凍保存しておきます。

使用するときには微温湯で解凍して飲ませます。

冷凍での保存期間は最大でも 3 か月が限界です。

### (2) 人工初乳製品

免疫成分が安定し、使い勝手がいい製品が、各メーカーから乾燥粉末又は液体で発売されています。初乳は飲ませる時間が大事ですから、母牛に事故があって飲ませることができない場合に備えて、あらかじめ入手しておくことをお勧めします。



【日付ありの凍結初乳】



### ●ちなみに・・・

子牛の下痢やカゼ対策で母牛に接種したワクチンは、子牛が初乳から抗体を受け取ることで初めて効果を発揮します。

# 子牛の下痢、あきらめていませんか？

子牛の下痢は、発育不良を引き起こすばかりでなく経営を圧迫する要因ともなります。3日間下痢の治療を受けた場合の経費はおよそ1万5千円！これが別の子牛に伝染して、大きな被害となるのです。下痢の予防には、まず原因を理解し、効果的な対策を打つことが大事です。

## 1 発症時期で原因が違います

下痢に関係する主な病原体と症状は表のとおりです。

しかし、下痢の発症には、病原体の他、母牛への給餌の失宜、環境の変化、ストレス等が引き金となります。

下痢の悩んでいる方は、もう一度牛の飼育管理の方法や牛舎の状態に問題がないかチェックしてみてください。

時期	原因	下痢の状態
1～3日齢	大腸菌	水様性の悪臭白痢
5～7日齢	ロタウイルス	水様性の乳黄色下痢
7日齢以内	コロナウイルス	水様性の血様下痢(冬場)
2～12ヵ月齢	コクシジウム	血便、粘血便

## 2 下痢対策のポイントは

(1) 清潔な環境を作ること。

下痢対策で一番大切なことは、清潔で快適な環境作りです。牛舎、特に牛床の管理が重要です。

子牛は、牛床に溜まった尿などでお腹が濡れてたりすると、体温が失われて下痢を発症する確率がとても高くなります。

左右の写真、あなたの牛床(牛舎)はどちらですか？



【汚れた牛床、飼槽も×】 【十分な敷料、乾燥した牛床は◎】

(2) ワクチンを接種すること。

分娩前の母牛に、下痢の予防ワクチンを接種して、子牛を病原体から守りましょう。

下に、牛下痢5種混合ワクチンの接種時期を示します。

●初接種牛(2回接種)

●前年接種牛(1回でOK)

分娩前6週間

同2週間前

分娩

分娩前2週間前

分娩



(3) 駆虫薬を投与すること。

寄生虫による下痢を防ぐためには、生後3週、2か月、7か月に駆虫薬を投与して下さい。最近では、背中に塗るだけで効果のある薬品がありますので、獣医師に相談して下さい。

数百円の駆虫費用で、増体が改善され、他の病気の発生を少なくする効果もあります。

## 3 お客様用長靴の備え付け

下痢の病原体は、靴底に付着して侵入してきます。

踏み込み槽の設置の他に、牛舎内専用長靴を備え付けて、牛舎に入るお客様には、専用長靴に履き替えてもらいましょう。専用の白衣などに着替えてもらうと一層効果的です！

合い言葉は、『病原体を持ち込まない・持ち出さない』です。



問合せ先 岩手県中央家畜保健衛生所 衛生課  
TEL 019-688-4111 FAX 019-688-4012